

Argentina

アルヘンティーナ

No. 70



ペリト・モレノ氷河 パタゴニア、2014年3月撮影、保坂常務理事ご提供

一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2017年8月

遠藤信博新会長ご挨拶 (遠藤 信博)	2	協会の活動報告	
友國八郎前会長、アルゼンチン国より叙勲 (友國 八郎)	3	～1月30日(火) ペロー駐日大使に新年表敬.....	9
マウリシオ・マクリアルゼンチン大統領来日 (吉村 佳人)	4	～2月3日(金) (一社) ラテンアメリカ協会主催新年会.....	9
アルゼンチンの地を“花”で飾った賀集九平 (平尾 行隆)	5	～3月9日(木) 平成28年度第2回理事会.....	9
アルゼンチン政治経済短信 (吉村 佳人)	6	～3月17日(金) 第32回「タンゴ音楽の集い」開催.....	9
Resumen en castellano (Irene Gashu)	8	～4月20日(木) 平成29年度第1回理事会/第5回定時総会/第2回理事会.....	10
協会の活動案内		～4月20日(木) 懇親会.....	11
～当協会主催第34回「タンゴ音楽の集い」.....	9	～7月7日(金) 第33回「タンゴ音楽の集い」.....	11
～「アルゼンチン・ウィーク」を計画.....	9		

会長就任ご挨拶

遠藤 信博

先般4月20日に開催された一般社団法人日本アルゼンチン協会の定時総会において、私は、法人会員および個人会員の皆様のご推挙により、当協会の会長に選任され、就任致しました。前任の友國会長は長きにわたりアルゼンチンとの友好関係に多大な功績を挙げてこられました。この機会に友國前会長に対し甚大なる敬意を表するとともに、日本アルゼンチン協会をお引き受けするのは、身の引き締まる思いがいたします。微力ながら両国関係の更なる促進に尽力して参ります。

皆さまご承知の通り日亜両国関係は、要人の往来が活発化するなど急速に接近しております。昨年11月には安倍首相が日本の首相としては57年ぶりにアルゼンチンを訪問しました。また本年5月にはマクリ大統領が訪日され、アルゼンチン大統領としては19年ぶりの訪日を実現しました。その際に私もマクリ大統領と面談させて頂きました。日本アルゼンチン協会の会長としてご挨拶させて頂くとともに、ICT業界に身を置く者として、日本技術によるアルゼンチン社会への更なる貢献につきお話をさせて頂きました。大統領からは「これからのアルゼンチンは透明性を堅持した国であり、その点において何か困った事あれば何でも言ってほしい。また日本にも多くの機会がある」との心強いお言葉を頂きました。

私はNECの会長として社会の安心・安全を守るソリューションのグローバル展開を進めております。その中でアルゼンチンでは他市場に先駆けて多くの実績を積み重ねてきました。犯罪率が激減したなど具体的な効果も出ております。私も講演など多くの機会でアルゼンチンでの事例を取り上げてきており、私にとってアルゼンチンは遠くとも非常に身近な国です。

先日もアルゼンチンを訪問させて頂き、素晴らしい文化にも触れました。タンゴ、ワインなど世界的にも有名です。近年アルゼンチン文化は日本でも広まりつつありますが、より多くの方に知って頂きたいと思っております。皆様が感じておられる両国のすばらしさ



遠藤信博新会長

を多くの方に認識して頂き、日本アルゼンチン協会が両国の架け橋として、交流の活性化の一助となれらばうれしい限りです。

日本アルゼンチン協会は、発足以来約60年に亘り、両国の友好関係の強化に貢献してきました。現在も在日アルゼンチン大使館と密接な連絡を取りながら、活発な活動をおこなっております。両国関係発展のリーダーシップを発揮される駐日アルゼンチンベロー大使はじめ大使館の皆様には大変な協力を頂いております。この機会に改めて感謝申し上げます。

当協会の会員の皆様におかれましては、日本・アルゼンチン関係の重要性を十分認識され、協会活動にご理解と積極的な協力を頂いております。私としましては、会長就任を機に、日本アルゼンチン協会の更なる発展とともに、従来にもまして両国の友好に努力する所存でありますので、会員各位の一層のご支援、ご協力をお願い致します。

(えんどう のぶひろ:当協会会長)

アルゼンチン共和国より叙勲

Orden de Mayo en el grado de “Comendador”

五月勲章—五月の功労賞 “騎士団長”

友國 八郎

このたび、日本アルゼンチン協会会長として日本とアルゼンチンの友好関係増進の活動に対し、アルゼンチン国政府より、身に余る榮譽をいただき大変光栄に存じております。

私は、副会長時代を含め日本アルゼンチン協会在籍18年となりました。今日、世界の政治経済環境は激動しておりますが、我がアルゼンチン、日本両国はマウリシオ・マクリ大統領と安倍晋三政権のもと友好関係を一層深める気運になっています。

昨年11月には安倍首相が日本の総理として57年ぶりにアルゼンチンを訪問され、この5月にはマクリ大統領が19年ぶりに多くの閣僚、経済界の方々と共に日本訪問を実現されました。両国関係が重要度を増し一層促進された関係を築かれつつあるところです。アルゼンチンでは世界貿易機関（WTO）閣僚会議、G20など次々と重要会議が予定され、また2018年は両国の国交樹立120周年であります。新しい日亜関係のため安倍首相もこれまで以上に積極的な友好促進をはかられています。

大変重要なこの時期に、協会のリーダーとして最もふさわしい遠藤新会長に引き継いで頂きました。深く感謝するとともに、大変心強く思っております。私は、今後は協会相談役として微力ながらお手伝いをと考えております。

日本アルゼンチン協会では、ベロー大使とは名誉会長と会長という立場で日亜友好親善に共に働かせて頂きました。非常に前向きに物事を推し進める方としてその行動力と高いご見識に深く感銘しております。今回このような榮譽ある叙勲は、ベロー大使の多大なるお力添えの賜物と感謝の念に堪えません。

4月20日の叙勲伝達式を恒例の日亜協会懇親会の中で設けて頂き、ベロー大使、ガルデラ主席公使はじめ大使館の皆様及び日本アルゼンチン協会役員・会員の皆様のご厚意に感謝致します。同席した妻や孫たちも、大使館の皆様や日亜協会の皆様の温かいお言葉とお心遣いに変えながら光栄の念に浸っておりました。

アルゼンチンとこのような形で関わらせて頂き本当に幸せでした。会員の皆様には、今後とも遠藤新会長への変わらぬご助力を祈念して、私の御礼の挨拶とさせていただきます。

(とくくに はちろう:当協会相談役)



友國前会長ご夫妻、大使、公使、遠藤新会長と記念ショット



ベロー大使が友國前会長へ勲章授与

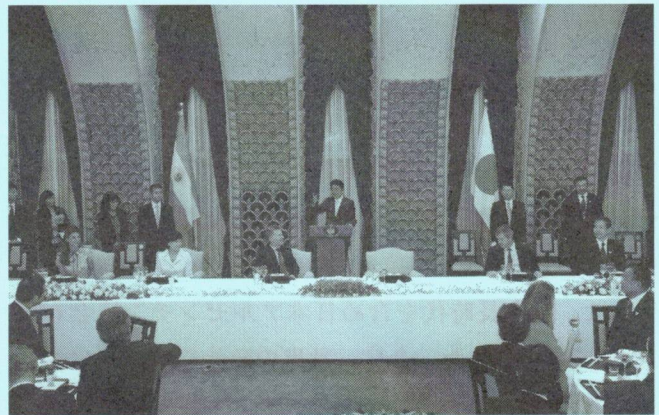


マクリ大統領の訪日

吉村 佳人

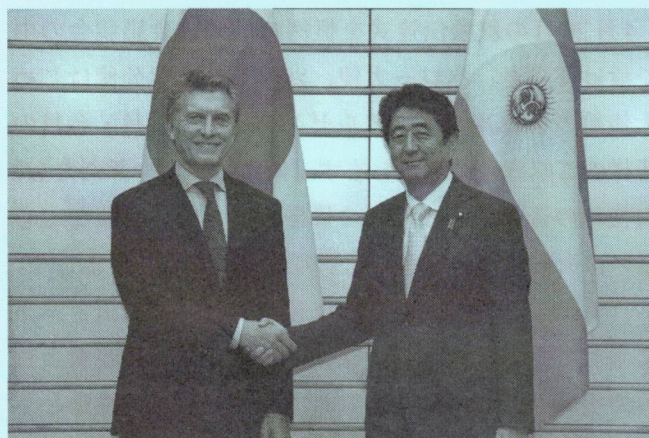
5月18~20日、マウリシオ・マクリ・アルゼンチン大統領は、公式実務訪問賓客として、アルゼンチン大統領としては19年ぶりに訪日し、19日夕刻、安倍内閣総理大臣と首脳会談を行うとともに、大統領夫妻は吹上御所を訪問し、天皇皇后両陛下と会談を行った。

両首脳は会談後共同プレス声明を発表したが、その概要は以下の通り。その後総理公邸にて安倍首相主催の晩餐会が開催され、安倍首相は晩餐会におけるスピーチで「アルゼンチンのステーキのおいしさは更に印象的」と述べる等、タンゴを含め両国関係の幅広い話題について会話が及んだ。晩餐会には日本アルゼンチン協会遠藤会長、弊協会理事の松下神戸大学名誉教授らが招待された。



総理主催晩餐会で挨拶する安倍総理

内閣官房内閣広報室提供



握手を交わす両首脳

内閣官房内閣広報室提供

また、19日午前中には、JETRO、駐日アルゼンチン大使館、アルゼンチン外務省、日亜経済委員会主催の日本・アルゼンチン経済フォーラムが開催され、マクリ大統領が基調講演の後、カプート金融大臣、ブルジャイレ農産業大臣、ディエトリッチ運輸大臣、アラングレン・エネルギー鉱業大臣、カブレラ工業生産大臣および日本側関係者が講演を行い、約500名の参加者が熱心に聞き入った。午後にはビジネスマッチングが開催され、貿易、投資促進の絶好の機会となった。

さらに、19日午前、岸田外務大臣とマルコーラ亜外務大臣が会談し、北朝鮮を含むアジア太平洋地域の安全保障や南米等の地域情勢についても意見交換を行った。

共同プレス声明の主なポイント

1. 政治関係

- G20等国際場裡での緊密な調整を含め様々な分野で基本的価値を共有する戦略的パートナーとして、両国の協力をさらに強化
- 2018年の外交関係樹立120周年を機に政治・経済・文化・人的交流をさらに拡大するとともに、記念行事等に積極的に取り組み

2. 経済関係

- 投資協定交渉の実質的合意を歓迎し、民間企業間の交流を強化
- 税関相互支援協定の交渉進展を歓迎するとともに、二重課税回避に関する協定の協議開始につき関係当局に指示
- 鉄道部門での国際協力銀行（JBIC）の貸付再開を歓迎し、さらなる案件形成への期待を表明
- 亜国産生鮮牛肉及び羊肉並びに日本産生鮮牛肉の貿易に関する取り組みの進展を歓迎
- 「日亜貿易投資関係拡大の協力のためのロードマップ2017」を歓迎

3. 人的交流

- 毎年ブエノスアイレスで開催されている「ラテンアメリカ交際観光展」への日本の初参加を歓迎するとともに、ワーキングホリデー制度に関する両国政府間の協力覚書の署名を歓迎

4. 国際場裡における協力

- 北朝鮮による核実験及び弾道ミサイル発射を最も強い表現で非難するとともに、国連安保理等のコミットメントを遵守し、NPT及びIAEAの保障措置への復帰を強く要請
- 2018年のアルゼンチンでのG20に関連して、G20枠内での共通の関心事項についての協力継続で一致

(よしむら よしと:当協会常務理事)

「アルゼンチンの地を“花”で飾った賀集九平」

平尾 行隆

“アルゼンチンの牧畜業はガウチョによってはじめられ、リオ・ネグロのリングはイギリス人によって先べんをつけられた。メンドーサのブドウはフランス人により、北亜のミカン類はスペイン人やイタリー人によって、ブエノス近郊の花の栽培は在アの日本人によって、道は拓かれたとって差し支えない。

在アの日本人がブエノス近郊で花をはじめてから今年でちょうど満50年になる。その歩みは

1920年 2家族、1930年 48家族、1940年 163家族、
1950年 382家族、1960年 600家族、1970年 1000家族

で、半世紀のあいだに一千家族の花弁業者に膨張した。”

上記は、財団法人・アルゼンチン拓殖協同組合創立15周年記念誌「拓殖」第4号（1970年11月）で、この雑誌の編集人である賀集九平により述べられた言葉である。

賀集は、1896年12月、北海道・平取（びらとり）で生を受けた。秋田県立農学校卒業後、静岡県・興津や兵庫県・明石の農林省農林試験場に勤務した。22歳のときに、南米大陸に夢を求め太平洋を渡った。チリからアンデス山脈を越え、ブエノスアイレスに入った。（1918年12月）1919年初め、メンドーサのサン・ラファエルに農園を持ったが、花の生育に適さない気候（あられ・ひょうが降る）と分かり、ブエノスアイレスに拠点を移した。当初、民間の花弁栽培の企業に勤めたが、長く続かず独立する。首都近郊で裕福な家の庭師をやりながら、日本のアサガオやキク、ダリアの種を取り寄せ、露店、あるいは行商で花を売っていた。そして、少しずつ業容の範囲を広げていった。

賀集は、1922年から明興園（めいこうえん）という花弁園を経営し始めた。バラの鉢栽培を行い、多いときは一万二千鉢のバラを栽培していたという。その後、カーネーションの栽培を加へ、アルゼンチンではカーネーションは日本の花といわしめるほどであった。1924年末、賀集は日本に一時帰国した。恩師・恩

田鉄弥（農学博士）より紹介を受けていた彼の姪である恩田静子に会うためであった。彼女は京都で高等教育を受けた才色兼備な女性であった。そして、翌年1月、東京で二人の挙式があげられた。

ブエノスアイレスから北東約50キロにエスコバルがある。この町は、現在、花の都（みやこ）と呼ばれ、毎年9月から10月にかけて、盛大な花祭り（国家的催し）が行われている。この花の都に大いに貢献したのは、賀集であった。1928年、彼がエスコバルを訪れたときは、歴史ある静かな町であった。彼は、この土地を、人生の長期的見通しのもと、花弁栽培の最適の土地と判断した。そして、日本人の同じ仲間を多く誘い、花作りに精を出した。1930年には、花弁産業組合を設立し、組合の会長を長きに渡り務めた。そして、賀集の不断の品種改良努力により、20世紀中ごろでは、「アルゼンチンで花作りといえば日本人」といわれるまでになった。



賀集九平、ブエノスアイレスの花の品評会で、最優秀賞の大統領銀杯を3年連続授賞したこともあった

（この間、太平洋戦争があったが、アルゼンチン政府は、日本人の花弁産業組合を監視状態に置くのみで、大きなトラブルは生じなかった）

賀集は、バラ以外に、桜の花が好きであった。アルゼンチンの大地に日本の桜を初めて移植した。私は、2008年4月、賀集の住んでいた家を訪れたことがある。

広い庭には数本の桜の樹が植わっていた。アルゼンチンの季節は秋であったため花は観ることは出来なかった。エスコバルには、桜並木の“さくら通り”がある。また、賀集は、日本原産の桜を世界中に訪ね、一冊の本を著している。（「世界の日本ザクラ」 誠文堂新光社 1976）

賀集九平には、上記以外に、次の主な著書がある。

「アルゼンチン同胞五十年史」 誠文堂新光社 1956
「花卉園芸四十年」 ニッパル・クラブ 1963
「アルゼンチン同胞八十年史」 六興出版 1981

賀集の人物像は、前著「拓殖」に、アルゼンチン拓殖協同組合の主要メンバーである中野清太郎により書かれている。「貴公子然として未だに青年を思わせる気概…曲がったことは爪の先程も嫌い…自信の強さと信念の人」（引用）さらに、学究肌で、几帳面さを持ち合わせていた。

賀集九平は、日本政府より勲五等瑞宝章を受けている。そして、1987年11月、享年91歳で天寿を全うした。1996年、エスコバルには、“KUHEI GASHU”の名前を冠した通りが出来ている。

註：賀集九平氏は、当協会理事イレーネ賀集氏の祖父であります。

（ひらお ゆきたか：

当協会会員、元三井物産（株）

中南米各地駐在体験から日本と中南米各国の音楽・文化交流に精通・協力され、著作、講演等活動中。香川県高松市出身。

この夏から瀬戸内海の小豆島に塾「星の王子さま」を立ち上げる計画。この島を拠点にして、瀬戸内の島々で、「星の王子さま」の朗読会を展開する予定。- 子供・若者が対象、ボランティア-

アルゼンチン政治経済短信

吉村 佳人

1. 内政

① 社会緊急事態法の成立

昨年12月14日、今後3年間の社会緊急事態（Emergencia Publica）を宣言し、その間計300億ペソ（約20億ドル）の予算を割り当てることを内容とする社会緊急事態法が連邦議会で可決、成立した。同法に基づき、子ども手当の支給額増加、クリスマス用食品バスケットの支給等が実施されている。

② 所得税法の改正

昨年12月23日、連邦議会で改正所得税法が可決した。これにより所得税非課税限度額の引き上げ（月3万ペソ→3.7万ペソ）、最低税率の引き下げ（9%→5%）、最高税率35%の適用額の引き上げ等が実施された。なお、これによる財源不足を補うため、カジノ税、ドル先物取引税等の財源措置が講じられている。

③ 外務・宗務大臣の交代

6月12日、マルコラ外務・宗務大臣が辞任（個人的理由と言われている）し、ファウリエ駐仏大使が新外

務・宗務大臣に就任した。ファウリエ氏は外交官でフランスの他、ブラジル、チリ、ポルトガル等の大使の経験がある。

④ 新財務大臣及び金融大臣の就任

昨年12月26日、マクリ大統領はプラット・ガイ財務・金融大臣を解任する方針を示し、1月3日付けの官報に公示された。後任には、ドゥホブネ氏が財務大臣に、また、カプート氏が金融大臣に就任した。プラット・ガイ前大臣は2001年のデフォルトの解決に尽力し、アルゼンチンが国際金融社会に復帰するのに貢献したが、景気低迷や物価高に批判があった。

⑤ フェルナンデス前大統領の起訴

昨年12月27日、フェルナンデス前大統領が、在任中の公共事業に関する汚職の罪で起訴され、併せて100億ペソ（約6.6億ドル）の財産を差し押さえられた。

⑥ 連邦議会開会式におけるマクリ大統領の施政方針演説

3月1日、マクリ大統領は連邦議会通常議会の開会式

において、貧困撲滅、社会インフラ、教育、交通インフラ、治安対策、汚職対策、外交政策等に関する就任後2回目の施政方針演説を行った。この中で、財政赤字（16年4.2%）を2018年には3.2%、19年には2.2%に引き下げ、また、インフレ率については2017年は12~17%、19年には5%を目標とすると述べた。

⑦ 労組等によるゼネスト、大規模デモの実施

3月6日、教員労組は35%の賃上げを求めて一部を除く全国の公立小中学校で48時間のストライキを実施した。プエノスアイレスでは5万人の教員が参加する大規模デモも行われた。また、3月7日には労働総同盟（CGT）等による労働者の解雇増大、政府による賃上げ抑制等に反対するデモが行われ、20~40万人が参加した。

さらに、4月6日にはCGT及びアルゼンチン労働者センター（CTA）によるゼネストが実施され、鉄道、バス等の公共交通機関が運行を停止したほか、学校、銀行等も閉鎖された。

2. 経済

① IMFの経済見通し

4月、IMFは各国の経済見通しを発表し、アルゼンチンの2017年の経済成長率を2.2%、インフレ率を21.6%と予測している。

② Blanqueoの最終結果発表

4月4日、Blanqueo（未申告外貨の正規化;2017年3月31日までに国内または海外に保有する未申告の金銭、不動産、株式、債券を申告すれば、低率（5~15%）の税金を支払うことにより正規に保有が認められる制度）の最終結果を発表した。開示総額は1,168億ドル、これによる税収は1,486億ペソであった。

③ IDBによる融資

昨年12月、IDBはアルゼンチンとチリを結ぶ「Agua Negra」トンネル建設のため、両国に対し4000万ドル（各2000万ドル）の融資を実施した。

④ コンピュータ関係の関税引き下げ

2月20日、コンピュータ組立部品の関税（平均12%）を同日付けでゼロにするとともに、コンピュータ完成品（PC、タブレット）の関税（平均35%）を3月30日付けでゼロとする政令が制定された。

⑤ 国外からの資本流入に対する滞留義務の撤廃

1月、国外からの資本流入に関し、その30%を最低120日国内に滞留することを義務つけていた制度を撤

廃した。同制度は2005年に1年間の滞留義務を課す制度としてはじめられていたが、マクリ政権になり、120日に短縮されていた。

⑥ シェールガス処理プラントの稼働

4月18日、ShellはVaca Muertaシェール層からのシェールガスの1万BPD処理プラントの稼働を開始した。また、YPF、Pan American Energy（BPの子会社）、Total Austral、Wintershall（独）はVaca Muertaシェール層の開発に5億ドルを投資する計画を規制当局に申請した。

⑦ 主要経済指標の動向

イ)GDP; 2017年第1四半期のGDPは前期比+1.1%、前年同期比+0.3%であった。

ロ)経済活動指数（INDEC発表）; 昨年11月は前月比+1.4%（前年同月比△1.4%）、12月同+1.6%（同△0.1%）、1月同+1.1%（同△0.5%）、2月同△1.9%（同△2.2%）、3月+1.5%（同+1.3%）、4月0%（同+0.6%）で推移している。

ハ)消費者物価指数（CPI）; INDECは5月のCPIは前年同月比+24.0%と発表した。なお、前月比は1.3%であった。

ニ)失業率; 2017年第1四半期の失業率は9.2%であった。

ホ)為替レート; 6月末時点での為替レートは1米ドル=16.63ペソ

ヘ)Merval指数; 6月末の終値は21,764であり、昨年末（16,917）に比べて30%近く値上がりしている。

3. 外交

マクリ大統領は、2月にブラジル、チリ、スペイン（国賓）、3月にパラグアイを訪問し、各々テメル大統領、パチェレ大統領、ラホイ首相、カルテス大統領と首脳会談を行った。

また、5月には、訪日の前に、中国を訪問し、「一带一路」会議に出席するとともに、習近平国家主席と首脳会談を行った。

他方、6月メルケル独首相がG20の準備のためアルゼンチンを訪垂しマクリ大統領と会談、自由貿易の推進で一致した。また、6月コスタ・ボルトガル首相も訪垂し、メルコスール、EU間の自由貿易協定締結交渉促進で一致した。

4. 日亜関係

① 藪浦外務副大臣のアルゼンチン訪問

5月2~3日、藪浦外務副大臣が訪亜した。訪亜中、ビジャグラ外務副大臣と会談し、両国関係の強化、世界情勢等幅広い分野について意見交換するとともにマクリ大統領訪日に向けての協議を行った他、アリシア・テラダ下院議員（アルゼンチン日本友好議員連盟会長）との会談、日本関係諸団体との意見交換を行った。

② 北岡JICA理事長の訪亜

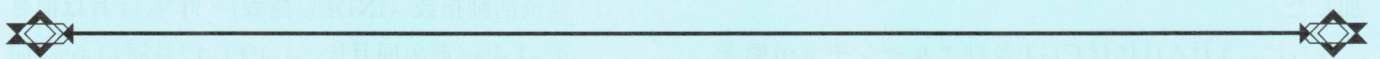
2月6日、北岡JICA理事長が訪亜し、ミケティ副大統領、マルコーラ外務大臣らと会談した。マルコーラ

大臣との会談では、大臣から一村一品運動を通じた地域開発に関心が示されたほか、「改善」プロジェクトの重要性等について双方から前向きな評価がなされた。

③ その他主な企業関係者の訪亜

マクリ政権になり、日本からの企業関係者の訪亜が増えている。3月には三井物産飯島会長が訪亜し、マクリ大統領を表敬した。また、4月にはNEC遠藤会長（日本アルゼンチン協会会長）も訪亜し、関係者と積極的に会談した。

（よしむら よしと：当協会常務理事）



Resumen en castellano

por Irene Gashu

Saludos del nuevo Presidente (p. 2)

Por Nobuhiro Endo

El pasado 20 de abril, asumí como Presidente de la Asociación Nippon Argentina. Gracias a la reciente visita del Primer Ministro Shinzo Abe a Argentina y del Presidente Mauricio Macri a Japón, las relaciones entre ambos países se han intensificado. Hace poco, estuve en Argentina y pude apreciar su cultura, sus famosos tangos y vinos. Nuestra Asociación, con 60 años de historia, ha servido de puente entre las dos naciones. En mi nuevo cargo, haré todo lo posible para estrechar aún más las relaciones entre Argentina y Japón.

Orden de Mayo en el grado de Comendador (p. 3)

Por Hachiro Tomokuni

El gobierno argentino, reconociendo mis esfuerzos por promover las relaciones de amistad entre Argentina y Japón, me ha honrado con la condecoración de la Orden de Mayo en el grado de Comendador. Agradezco al Embajador Alan Beraud, Ministro Felipe Gardella, los demás miembros de la Embajada Argentina y los socios de nuestra Asociación. Por mi parte, seguiré vinculado a nuestra Asociación como Consejero Ejecutivo.

Visita del Presidente Macri (p. 4)

Por Yoshito Yoshimura

El Presidente Mauricio Macri, visitó Japón del 18 al 20 de mayo pasado. Con el Primer Ministro Shinzo Abe, selló varios acuerdos de cooperación para potenciar las relaciones bilaterales entre Japón y Argentina en lo político, económico, cultural, turístico y deportivo. El Banco Nipón de Cooperación Internacional (JBIC) volverá a proporcionar fondos a Argentina. El Presidente Macri también habló en el Foro Económico y de Negocios Argentina-Japón ante 500 asistentes.

Kuhei Gashu embelleció con flores la Argentina (p. 5)

Por Yukitaka Hirao

En 1918, un joven japonés de 22 años, Kuhei Gashu, llegó a Argentina. Diez años después, se radicó en Escobar para dedicarse a la floricultura porque la tierra de esta ciudad le pareció ideal para tal actividad. Ahora, Escobar es conocida como la “ciudad de las flores”. Gashu es autor de varios libros: “Los sakura en el mundo”, “Historia de los japoneses en Argentina”. En Escobar hay una calle que lleva su nombre.



協会の活動案内

～当協会主催

第34回「タンゴ音楽の集い」

10月20日（金）を予定しています。

今年のテーマ「アルゼンチンタンゴ～音楽史と社会史でみるその魅力と醍醐味」の第3回目です。

詳細が決まり次第、ご案内します。

～「アルゼンチン・ウィーク」を計画

アルゼンチンとの友好関係、タンゴ、ダンスなどの文化関係を広く一般の皆さんにも紹介のため、アルゼンチン大使館の協力のもとイベントの実施を計画しています。企画概要が決まりましたら、追ってご案内します。



協会の活動報告

～1月30日（火）

ベロー駐日大使に新年表敬

当協会友国会長、永井理事長、吉村常務理事がベロー大使、ガルデラ主席公使を表敬、新年の祝詞を述べると共に懇談した。

マクリ大統領が5月後半来日予定の公算大となり、例年5月下旬の当協会定時総会は4月に前倒しする要があることが話された。

友国会長から、18年間当協会に微力ながら献身してきましたが、この度、協会会長としてふさわしい仁を迎えることが出来ましたので、本年度をもって会長退任致したく同大使に挨拶された。

ベロー大使は、来日1年足らずですが、友国会長のこれまでのア日友好関係促進への献身的尽力には感銘しており、大変残念ではありますが、友国会長の勇退につき事情理解された。

～2月3日（金）（一社）ラテンアメリカ協会主催新年会

ラテンアメリカ諸国の駐日大使及び関係者並びに日本のラテンアメリカ諸国関係協会、団体代表が集まり、恒例の新年懇親会が東京丸の内の三菱クラブにて開催された。

当協会から永井理事長、加藤常務理事が出席し、同協会の佐々木幹夫会長、アルゼンチン大使館からのベロー大使と懇談した。

～3月9日（木）

平成28年度第2回理事会

内幸町の米州開発銀行アジア事務所会議室において15:00から、平成29年度事業計画、平成29年度予算の審議、承認を主たる議案として、第2回理事会が開催された。

また、ベロー駐日大使が当協会名誉会長として、日本電気（株）（NEC）が新規法人会員として、夫々承認された。

～3月17日（金）

第32回「タンゴ音楽の集い」開催

今年のテーマは、「アルゼンチンタンゴ～音楽史と社会史でみるその魅力と醍醐味」で、その第1回目。銀座ブロッサム中央会館にて開催し、1910年代のタンゴ起源から1930年代の黄金期にかけてのカルロス・ガルデル、フランシスコ・カナロ、ファン・ダリエソ等大御所の貴重な映像と名曲を当協会理事の飯塚久夫氏が名解説、名トーク。50名の満場の参加者がタンゴに堪能した夕べであった。

～4月20日(木)

平成29年度第1回理事会/ 第5回定時総会/第2回理事会

・15:30～第1回理事会

平成29年度第1回理事会は、在日アルゼンチン大使館小講堂において、午後3時30分から開催され、平成28年度事業報告並びに平成28年度収支決算報告が承認されると共に、第5回定時総会に上程する7議案が原案通り承認・可決された。



第一回理事会にて

・16:30～第5回定時総会

第1回理事会に引き続き同場所に於いて、第5回定時総会が開催された。

冒頭、友国会長より、この会場を提供して頂いたペロ駐日アルゼンチン大使に対し、深甚なる謝意が表明された。

高安常務理事から、現在の議決権総数89個に対し、出席の正会員が36名、委任状提出が31名、合わせて議決権を有する出席総数は67個で、過半数を上回り、総会は適法に成立している旨報告された。第1回理事会で承認・可決された7議案が夫々の担当理事から説明があり、全ての議案が滞りなく承認・可決された。

本年度は理事・監事の改選期に当たり、再任を含めて27名の理事と2名の監事が選任された。

理事：荒尾保一 飯塚久夫 勝田富雄 加藤勝巳
川上 貴 イレーネ賀集 木島輝夫 木村敏夫
楠 宗久 斉木茂治 宍戸和郎 嶋 利治
高安宏治 寺本安久 永井慎也 藤田伍郎
保坂庄司 松下 洋 松本良彦 的場博子
安田直弘 吉村佳人 渡部千秋 *伊藤嘉則
*遠藤信博 *前谷謙二郎 *湯浅幹康

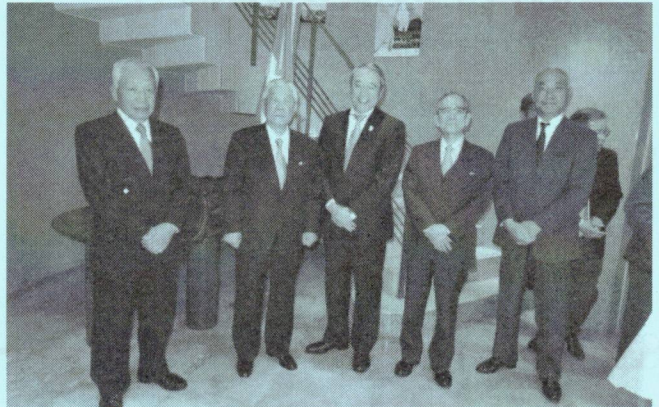
以上理事27名(*は新任)

・監事:西脇 修(重任) 横山 稔(重任)

以上監事2名

上記の新役員の氏名は、登記完了次第、協会ホームページに掲載します。

尚、第7号議案として、永井理事長からアラン・ペロー駐日アルゼンチン共和国大使を当協会の名誉会長に選任する旨報告された。



定時総会を前にして

・17:30～第2回理事会

定時総会に引き続き、同総会で選任された理事により、第2回理事会が開催され、役付理事並びに業務執行理事が選定、承認された。

次の通り平成29年度の執行部新体制がスタートした。

会長・代表理事	遠藤 信博
副会長・代表理事	木島 輝夫
理事長・代表理事	永井 慎也
常務理事・業務執行理事	川上 貴
同	寺本 安久
同	保坂 庄司
同	吉村 佳人
同	渡部 千秋
業務執行理事	木村 敏夫
同	楠 宗久
同	嶋 利治
同	藤田 伍郎
同	松本 良彦

更に、次の通り、相談役並びに顧問が承認された。

相談役 友國 八郎(前会長) (新任)

顧問	京谷 弘司	(重任)
同	白鹿 敦己	(重任)
同	津島 勝二	(重任)
同	鶴岡 忠成	(重任)
同	守戸 一清	(重任)
同	星野 美智子	(重任)
同	尾見 和男	(重任)

以上顧問7名

～4月20日（木）懇親会

第5回定時総会終了後18:30より、恒例の協会会員懇親レセプションが、ペロー大使のご厚意により大使公邸サロンで約2時間に亘り開催された。

本年は、協会にとって遠藤新会長のもとでの懇親会開催に加えて、友國前会長が18年間にわたる協会運営を通して日亜友好関係増進に尽力された功績に対して、アルゼンチン共和国から勲章（Orden de Mayo en el grado de Comendador—5月勲章）が授与されることが決まり、懇親会冒頭に、ペロー大使からの勲章授与式が行われるという素晴らしいハプニングが加わり、参加者一同大変に盛り上がった懇親会になりました。



高瀬外務省中南米局長ご挨拶、乾杯をご発声

遠藤新会長挨拶、ペロー大使挨拶、高瀬外務省中南米局長の挨拶・乾杯で会はスタート、日本タンゴ会の中心的バイオリニスト、当協会会員の会田桃子率いる4重奏団のタンゴ演奏を聴きながら、会は佳境に入っていた。



遠藤新会長、高瀬局長、ペロー大使、友國前会長

アルゼンチン大使館関係者、日本外務省関係者、アルゼンチンと長期に友好関係を結んでいる茨城県境町関係者もご来場頂き、総出席者はこれまでにない程の150人近くとなり、最高の盛り上がりで、懇親を深めた宵となった。



会場にて

～7月7日（金）

第33回「タンゴ音楽の集い」

本年のテーマ「アルゼンチンタンゴ～音楽史と社会史でみるその魅力と醍醐味」の第2回目。銀座プロッサム中央会館7階で、飯塚久夫理事の名解説、名トークにより開催。

今回はアルゼンチンタンゴの1940年代から1960年代というまさにタンゴ黄金時代、これを確立した巨匠、ファン・ダリエンソ、オスバルド・プグリエーセ、マリアノ・モーレス、エドムンド・リベロ、カルロス・デイ・サルリ等が、それぞれ独自の演奏スタイルを確立した時代であり、その貴重な演奏映像が紹介された。

また、社会史的には、第2次大戦終結後1946年6月ペロン政権誕生、ペロン夫人-エバ・ペロン・デュアルテ（エビータ）と労働者階級の台頭と大きく変化の時代に入っており、音楽史と社会史を絡めた飯塚理事の名解説に、満席の参加者は感銘し、アルゼンチンタンゴの魅力に益々嵌るほどの満足された集いであったと思います。

次回10月20日（金）は、本年テーマの第3回目で、更に現在ブエノスアイレスで一流バンドに参加して活躍されている若手日本人ミュージシャンについても紹介される由（同理事は本年5月にブエノスアイレス訪問）、楽しみです。



飯塚理事の名解説・名トーク

会員の皆様からの自由なご意見、情報、原稿投稿をお待ちしています

「アルヘンティナ」に会員からの自由な「会員投稿欄」を設けて、会員交流を図って行きたいと思えます。お住いの市町村名、年齢、お名前（ペンネームでもOK）記載してご投稿ください。お待ちしております。

投稿先：日本アルゼンチン協会 FAX: 03-6809-3682 E-mail: nippon@argentina.jp



協会ホームページの活用及び E-メール通信の件

1. ホームページ (URL: <http://www.argentina.jp>)

何らパスワードの入力は不要で、誰でも自由にホームページ内情報にアクセス出来ますので、ご活用ください。

2. E-mail アドレス

nippon@argentina.jpが、協会のE-mailアドレスです。

アルゼンチンに関わる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えする為、E-mail アドレスを連絡頂いている会員の方にはメール通信を始めております。

このメール通信をまだ受信されていない方で、受信をご希望の方は、住所、氏名及びメール・アドレスを当協会メールアドレス宛 (nippon@argentina.jp) 発信、ご連絡下さい。次のメール通信から送信致します。ご連絡頂きましたメール・アドレスは、当協会の情報伝達関係以外の用途には使用致しません。

ご質問その他お問い合わせある場合は、協会事務所宛お電話ください。

電話：03-6809-3681 担当；阿部

平成29年度 年会費納入のお願い

本年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日迄）の年会費のお支払いがまだ済まされていない方は早めにお支払手続きを済まして頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員： 1万円

個人賛助会員： 5千円

住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-6809-3681

FAX：03-6809-3682

E-mail: nippon@argentina.jp

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第70号
2017年8月1日発行

発行人 永井 慎也（当協会理事長）

編集長 木村 敏夫（当協会業務執行理事）

編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会
〒108-0073

東京都港区三田2-7-16 協和三田ビル3階
電話：03-6809-3681

FAX：03-6809-3682

E-mail：nippon@argentina.jp

URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート

編集長よりの御礼

今回も皆様のご協力を得て無事発行となりました事、お礼申し上げます。

花作り賀集九平氏をご紹介頂いた平尾行隆様

西語サマリ作成イレーネ賀集様（九平氏お孫さん）

表紙写真ご提供の保坂庄司様（当協会常務理事）

お三方には、重ねて御礼申し上げます。